

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



特集

あなたの挑戦をサポートするNGO研修 ～持続可能な運営への第一歩～

名古屋NGOセンターは、NGOのスタッフ・ボランティア向けに
組織や運営力の向上につながる研修を行いました。

あなたの挑戦をサポートするNGO研修 ～持続可能な運営への第一歩～

名古屋NGOセンターは、JICAのNGO等提案型プログラムを活用して、2024年8月～2025年4月まで「あなたの挑戦をサポートするNGO研修～持続可能な運営への第一歩」を開催しました。受講者は、NGOの代表、有給スタッフ、ボランティアと立場はそれぞれですが、当初の定員30人を大きく上回る63人。東海地方を中心に、東京や大阪、さらには海外の支援場所から多くの方が受講されました。

研修プログラム

【A】非営利組織マネジメント講座（3時間×3回）

こまつあき
講師：呉 哲煥さん

- ・ 非営利組織マネジメントの基本原則
- ・ 多様な関わり方のデザイン
- ・ 主体的な担い手を育てる



【B】先進事例の考察と意見交換（4時間×4回）



- ・ 支援の現場から学んだ、ヒト・チーム・社会の変え方
認定NPO法人テラルネッサンス創設者理事 おにまる まさや 鬼丸 昌也さん



- ・ フィリピンでも日本でも安心して議論できる場を提供できる組織へ
認定NPO法人アクセス 理事長 のだ しろ 野田 沙良さん



- ・ 立ち上げ10年のNGOがマンスリーリポーター354名を獲得できた秘訣
(特活)Alazi Dream Project(アラジ)代表理事 しもと ゆめみ 下里 夢美さん



- ・ 動画を通じた発信力強化
一般社団法人DIVE.tv代表 まきの かなこ 牧野 佳奈子さん

【C】活動で抱える課題のシェアリング（2時間×4回）

- ・ 法人化を見据えたスケーラブルな組織への改革
- ・ TikTokでのアカウント作成と動画配信
- ・ ルーブリックを使ったメンバーの巻き込みルーム
- ・ 数ヶ月を費やして応募した助成金が通らなかった時の対処法
- ・ フィリピン出張での活動の動画作成（SNS用）と配信
- ・ 【情報×媒体】広報発信の仕方について
- ・ 渡航時の動画撮影・編集および事業紹介での使用
- ・ インターンやボランティアの巻き込み

【D】組織及び事業運営の強化につながる実践と伴走支援

- ・ 支援・協力者を増やすための取り組み
支援を受けた団体：認定NPO法人アイキャン、NPO法人幸縁 しえん
- ・ 組織改革のための取り組み
支援を受けた団体：(特活)外国人ヘルプライン東海
- ・ メディアを活用した事業展開
支援を受けた団体：(公財)アジア保健研修所

この他に7団体にコミュニティキャピタル診断を行いました。

■ 様々な形式の研修

研修は、講師からの講義を30分程度受けた後に小グループに分かれてワークショップを行い休憩するというローテーションを繰り返す形式で行われました。小グループは経験年数、世代や性別が偏らないように工夫されて、講師からの問いにグループで議論して受け身だけの研修にならないようになっていました。また対面とオンラインを併用したため遠方の方もストレスなく受講できました。

研修【A】は、国際協力以外の一般的な市民団体にもあてはまる非営利組織マネジメント講座。優れたコミュニティは「理念共感と貢献意欲」「自己有用感」「居心地の良さ」の3つの要素が高いことや、多様な関わり方があることを認識して、

代表・コアスタッフ・メンバーの関係をサッカーのベンチ・フィールド・観客席に例えるとよいということなどの研修でした。

研修【B】は、どのNGOの皆さんも共通の悩みである、支援者を増やしたい、組織を活性化したい、マンスリーサポーターを増やしたい、動画を活用したい、という課題の成功事例の紹介をされました。国際協力に特化した組織運営の改善については話を聞く機会が少ないため、非常に参考になりました。講座が17時に終了してから毎回懇親会を行い交流を深めることができました。

研修【C】は、研修の受講者から話題を提供して、受講者ど

うしで語り合うものでした。例えばTikTokを広報に活用している団体の事例紹介では、「表情をもっと大きくした方がいい」というアドバイスもあれば、「若いメンバーがいない団体なのでTikTokは良く知らなかった」という感想、「TikTokを作ってくれた学生ボランティアが卒業するので、どうしたら次の方につながるができるのか」という課題に対して、別の受講者からの成功事例の提案があるなど、双方向的に活発な意見交換ができました。



オンラインと会場での研修の集合写真

参加者の方からは次のような感想がありました。「当初は事務局や講師に知り合いがいて一部興味のある講座があったことから部分的に参加をと思っていましたが、蓋を開けてみたらどの講座も常日頃感じている課題解決の糸口になる効果的な内容ばかりで、気が付けば全て受講し尽くすくらいお得で今後に繋がる研修でした。」

■ 団体に向けての研修も

以上の研修は出席した方を対象としたものですが、並行して団体そのものの強化につながる研修も行いました。研修【D】は4団体を対象に【A】～【C】の講師などの専門家による伴走支援です。中心メンバーに呼び掛けて組織の未来を考える会議を開催したり、新たな支援者を獲得するために寄付や広報の現状分析をしたり、専門家の力を借りながら組織強化につながる実践を行いました。

またアンケートに答えるだけで組織の「今」の状態を多角的に分析できるコミュニティキャピタル診断も行いました。この研修は来年度も行う予定です。

(担当：丹羽、内藤(壽))

この研修のねらい

研修コースリーダー ^{ばん しげき} 坂 茂樹
(名古屋NGOセンター代表理事)

コロナ禍の活動自粛やその後も続く景気低迷は、特に海外を支援対象とするような小規模NGOの事業を制限し、市民社会からのNGOへの寄付金も減少し資金難に陥った団体は活動を縮小せざるを得なくなりました。それに伴いやりがいや失ったスタッフの多くが団体を離れていくという現象を招きました。私自身もキャンヘルプタイランドというNGOのお手伝いをしていますが、コロナ禍による寄付金の減少や支援者の高齢化、運営スタッフ(無償ボランティア)の定着率の悪さや温度差など、乗り越えなくてはいけない課題が山積みで海外支援に注力できない状態に陥っています。

そこで、各NGOが個別に取り組んできた共通課題に対して、課題解決の成功事例を学びながら一丸となってこの危機を乗り越えようというのが今回の「あなたの挑戦をサポートするNGO研修～持続可能な運営への第一歩～」の趣旨となります。中でも、講師を依頼したアクセスの野田さん、アラジの下里さんなどは、まさにこれらの課題解決にいち早く取り組んでこられた先輩方です。そんな方々からの学びを得て、各参加者(団体)がお互いの認識を共有し、和気あいあいと

雑談もしながら交流することにより、各団体の今後の活動が少しでも活発になればと思って取り組んできました。

この研修が、コースリーダーとして、また一人の参加者としての私に与えた影響は計り知れません。“仲間がいる” “一人じゃない” “悩みは皆同じ” “解決策はある”という心持ちを得られたことは、今後のNGO活動のエネルギーとなりました。

私自身の結論として、ボランティア活動という金銭的なイニシアティブのない状況で、しかも各々の生活に忙しく時間の確保もままならないのは、ひとえに“余裕がない”というのが原因だと感じています。皆さんもまずは、“余裕のあるフリ”をしてみることから始めてみてはいかがでしょうか。



参加者の声



大学3年の時に、WAFCAのスタディツアーに参加。大学卒業後、1年ほどタイでの日本語教師経験を経て、帰国後も日本

語教師を続けた後にWAFCAのスタッフに。

この研修に参加した動機は、この団体でスタッフとして働き始めて5年、いつの間にか中核スタッフになり、団体の運営やマネジメントの悩みや課題を抱えるようになったこと。より多くのボランティアや賛助会員をいかに活動に巻き込んでいか、関わった方にいかに「喜んでもらうことや手ごたえを感じてもらえるか」。他のNGOやNPOの経験を、幅広く学べると思ったことです。特に研修B、地元ではない4つの団体の「先進事例の考察」に期待がありました。直接に訪ねるには難しい遠隔地の団体のお話を、名古屋駅に近い会場で直接に聞けることが魅力でした。

研修Bの4つの団体の事例のうち、特にフィリピンで活動

「アジア車いす交流センター」^{わふか} WAFCA 近藤みなみさん

する講師の野田さんのお話に手ごたえを感じました。団体の成り立ちにも共通するところがあり、「ディープな」お話が聞けました。事務局内が行き詰まった苦境をいかに乗り越えてきたかの話は、率直でリアルなものでした。内部の会議で自由に対等に話せなくなった状況の乗り越え方など、考えさせられました。

研修Bの前に、研修Aで講師の呉さんから、非営利組織のマネジメントについて、初級編として「中の人でしか分からないような」問題点や課題を聞いて知った上で、研修Bの具体的な事例を聞いたのも効果的でした。

今回の研修を通して、今までになかった他のNGOやNPOのスタッフとの横のつながりができたことも大きな手ごたえです。野田さんの紹介のフィリピン料理の店などでの懇親会(オフ会)でも、交流が深まりました。他団体のスタッフとも親しくなりました。事務局スタッフの入れ替わりが進むなど、WAFCAとの共通点がある団体のことも知れました。横のつながりを今後も作っていこうと思う機会にもなりました。

(担当:中島正人)

ふたかどともみ イカオ・アコ 二角智美さん

イカオ・アコは、日本人とフィリピン人が協働で、持続可能な社会を創ることを目指して、1997年からフィリピン・ネグロス島で、主にマングローブの植林活動を始め現在は、安全な水の供給、3R/ゴミの減量化などまで拡大し、市民が主体となって、持続可能な社会の構築を目指して活動しています。

以前参加した若手プロジェクトリーダー研修で、他団体と意見交換できる魅力を感じたため、この研修に参加しました。悩みや情報を共有し、具体的なアドバイスを得られることは貴重です。NGOの活動は異なりますが、共通の課題も多く、志を同じくする仲間との交流に大きな価値を感じました。

研修Bで野田さんが講義した、スタッフが安心して働ける職場づくりが印象的でした。特に、「相手の言葉を否定しない」などのグランドルールを決めることで、メンバーが安心して活動できる点や、ミーティング前に「チェックイン」の時間を設けることで参加意識を高め、発言しやすい雰囲気をつくる工夫に共感しました。私たちの団体では、それまで議

題にすぐ入る進め方でしたが、研修後にチェックインを取り入れてみたところ、メンバー同士が自然と近況を把握し合い、お互

いを気遣う雰囲気生まれました。その結果、ミーティングが単なる議題の確認ではなく、チーム全体の状況を共有する場として機能するようになったと感じています。

現場の活動を優先するあまり、広報やボランティア・寄付者集めが後回しになり、SNS発信も苦手で手が回らないことが多くありました。しかし、牧野さんのSNS運用の講義を通じて、NGO・NPOは「自分たちだけでなく、市民を巻き込みながら社会全体で問題を解決する存在」だと改めて実感しました。そのためには積極的な情報発信が重要であり、多くの人に活動を知ってもらい協力を得る必要があると再認識しました。研修を通じて、自団体のあり方を客観的に見直し、他団体からのアドバイスを受けながら新たな視点を取り入れる機会を得ることができました。(担当:三上奈桜)



これこれ約20年前、社会全体に広がる「物がたくさんある＝豊か」「お金をたくさん持っている＝幸せ」という基準に疑問を持っていた私は、日本以外の、かつ今まで触れたことのない言語と文化の国へ行ってみたいと考えていました。まだNGO・NPOという言葉も知らない頃です。どこに行くのがいいか、情報を集めていたら一枚のチラシと出会いました。「NGOスタディツアー合同説明会」。出展団体のツアーに参加し、カンボジアへ。このときは全く想像していませんでした。説明会を主催した名古屋NGOセンターに、こんなに関わらせていただくことになるなんて。

当時、新城市でのまちづくり活動を通して、参加型ワークショップに興味を持ち、関連の講座や研修に足を運んでいました。その中で、名古屋NGOセンターの存在を知りました。まだ栄に移転する前、本陣駅からすぐの、廃校になった小学校が事務所。なんだか懐かしく、居心地の良いところだなと思ったことを、今でも覚えて

エッセイ NGOの 散歩道 第41回

つながって、
つながって、
今ここ。

います。過去の事業も知り、あのとき参加した説明会はセンター主催だったんだ！加盟団体のホープ・インターナショナル開発機構のスタツアだった！と驚きの発見が。何も知らなかった頃から繋がっていたように思えて、嬉しくなりました。その後、様々な縁と機会が重なり、加盟団体のグッズを扱うフェアトレードショップを豊橋市で始め、今年で5年目になります。（会報vol.127“NANGOC RECOMMENDS”で紹介していただきました。ありがとうございます！）

まさか自分がお店を持つことになるなんて。人生、分からないものですね。でも寄り道ばかりしたからこそ、今ここにいるんだと振り返ってみて思います。好きな言葉は、牛に引かれて善光寺参り。これからも、まっすぐではない道を楽しみながら歩いて行きたい。このコーナーのタイトル「散歩道」のように。

旅と手仕事の雑貨店・語学教室
ルティカ

堀川絵美

さんぐりあ編集委員がおすすめするモノ・ヒト・メディア情報

NANGOC RECOMMENDS

なんごく りこめんず vol.79

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめもの」情報をおよせください。
e-mail: info@nangoc.org
※「NANGOC」とはNagoya NGO Centerの略です。



しんおん
心音books

わんこ&にゃんこの本を500冊ほど置いてある『犬と猫の専門書店』であり、一箱本棚オーナーが貸出本を置く小さな図書館でもある。月額3300円で本棚オーナーになると、本棚一つを自由に使うことができ、本を置くことはもちろん、雑貨やフリーペーパーを置いて販売もできる。かくいう私も一箱本棚のオーナーになっていて、図々しく自分の著書を置いたりしている。

さらにさらに本棚オーナーは自分の得意なことを皆さんにお披露目するワークショップを無料で開催することもできる。私はこれまでに醤油作り、400字作文、くるくるレタープレス、風呂敷結びなどのワークショップに参加。「名古屋で暮らす外国人」と題するトークイベントを企画した。

こじんまりとしたスペースにバラエティに富んだ本棚が並んでいて、ビールも販売してるので、ビール飲みながら読書するもよし。ワークショップに参加するもよし、ワークショップを企画するもよし。本棚オーナーになりたい方はインスタのDMで館長の村田さんに要相談。



アクセス:
名古屋市中種区本山町4丁目74-1
IB本山 2F-A
地下鉄本山駅から徒歩1分
営業日:
木～日&祝日 12:00～19:00

（詳細は
Instagram参照）
[https://
www.instagram.com/
shinon_books/](https://www.instagram.com/shinon_books/)



フィリピンパブ嬢の経済学

中島弘象 著

桜井裕子の
オススメ

映画にもなった前作「フィリピンパブ嬢の社会学」の続編。「経済学」は作者と妻のミカが、国際結婚をして日本で暮らす、その後の人生を描いたものだ。結婚までの経緯も面白かったが、外国人が日本で生活することの大変さが作者の視点を通して垣間見られる今作も実に興味深い。

ミカの日本語力は、パブで働いていたとはいえ日本社会で生活するとなると別問題だ。妊娠定期健診では外国人にとって難しい言葉も出てくる。まず、夫の手助けなしでは問診票が読めない。一方で日本の医療や保険制度は安心だと言う。国の家族を大切に思うフィリピン人だが、お金のサポートも絶やさない。結婚後も送金は続くので、もめ事の原因にもなる。これもまた支え合いながら生きていくフィリピン家族の形態なのだ。作者の理解と葛藤も伺える。他にも、覚せい剤や違法滞在の問題も書かれていて、外国人労働者の生活まで行政の支援が行き届いていないのを、いつもながら感じる。ミカは子どもの成長を通して生活に馴染んでいき、一人でもできることも増え、母としても強くなっていく。最後、ママの挑戦の場面では目頭が熱くなった。



新潮新書 2023年
820円＋税

Nたまのいま

No. 51



Nたま16期生 いわた たかし 岩田 崇さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てるコミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002～2024年度までの21回で（2004年、2020年度はお休み）、研修を受けた方は297名。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今ここで、どんな活動をしているのでしょうか？第51回はNたま16期生、今号の特集であるNGO研修にも参加された岩田崇さんにお話を伺いました。

企業、行政、そして市民へ……経験を生かして

■Nたまに参加したきっかけ

～タイの人が幸せに見えた～

三菱重工の社員時代、40歳を前にして管理担当常務取締役として設立3年目のタイJVに赴任したのが転機になりました。若かったので会社を軌道に乗せるため一生懸命でしたが、知らず知らずの内に疲れていたようです。そんな時、ふっと現地の人々は幸せそうに見えて。タイの人はいつでも「マイペンライ」（大丈夫）と、おおらかな国民性。南国なので外で寝ていても死ぬことはないし、食べ物も自生している木の実をもげばいい。日本人は彼らよりお金があるはずなのに幸せそうじゃないという思いが今もあります。

その後も海外現地法人の立ち上げや子会社経営などで最後まで海外や国内を飛び廻りました。退職の1年位前から、退職後はNGOやNPOに関わりたと思い始め、Nたま募集の情報を見つけました。最終説明会は土曜日で退職日当日。残務整理のため出社し、抜け出して話を聞き、応募を決めました。久しぶりに書く履歴書も頑張ったんですよ。面接も受け、合格。あの時は嬉しかったです。

■受講してみて

～インスパイアされた～

南北問題の構造や子どもの貧困は議員活動（※）等を通じそれなりに理解していたが、現場での経験がないので引け目を感じていました。理論編第1回の講

師池住義憲さんがベトナム戦争の最中に現地^{いけずみ よしのり}に身を置き、ホーチミン解放の場に立ちあい、ベトナム人の側に立つと決めたという体験談には同じ時代を生きてきた者として心底感銘を受けましたね。（※2005年～2012年 清須市議会議員）

■印象に残っている学び

～フィールドワークで実践～

岐阜県高山市のまちづくり研修や日進市のNPOあいあいの里は印象に残っています。実践する場であり、私の元々の志望動機でもある人脈作りにもつながります。現在もNたまサポーターとして現地へ出かけ研修を楽しんでいます。毎年訪問場所が変わるので、まちづくりの新たな発見があります。

■その後の活動

～柱は2つ？、いや3つ、4つ……～

1つ目は、Nたまサポーター。理論編でも毎年新たな発見があり、いろいろな世代との関わりもできます。自主企画作りのメンバーと前年度を振り返り本年度の企画に生かしたり、Nたまを地元でPRしたりしています。

2つ目は、地元清須市が主催する「協働テラス」の活動。市民の中に埋もれている社会活動に関わりたい人材を見つけ出し、ネットワーク作りの支援をしています。また議員時代のキャリアを生かし、より多くの市民協働が

生まれるようにインキュベーターの役割を担いたいです。

また、民生・児童委員として、一人暮らしの高齢者の見回りや地域の困りごと相談にもなっています。さらに昨年度から「外国人ヘルプライン東海」の監事になりました。職責をしっかりと果たしていきたいです。

■NGO研修に参加

～未知なることへの好奇心～

呉哲煥^{こ てつあき}さんの講義は特に素晴らしかったです。非営利団体にとっての報酬とは何か。善意の報酬はやりがいや達成感であり、それは、企業と同じエッセンスと知ってなるほどと思いました。他の講義からも未知なることに挑戦したいという思いが触発されました。

岩田さんの言葉からは、挑戦というよりも自然に湧き出る思いを感じた。まだまだ活動したいことが尽きない様だ。



Nたま受講時の発表風景

（担当：桜井）

セ ン タ ー の 動 き

退職あいさつ 田口 裕晃

たくち ひろ あき

2006年Nたまに参加して名古屋NGOセンターでインターンをし、2009年からは職員としてワールド・コロボ・フェスタの担当からはじまり、様々な活動に関らせていただきました。

日々の活動の中で、新しい発見や気づきがあり、それを仲間たちと共有しながら形にしていく過程は、全てがかけがえのない時間でした。時には意見が対立し、大変な局面もたくさんありましたが、それでも続けられたのは、素敵な仲間たちが常にそばにいてくれたこと、そして短い時間であっても、名古屋NGOセンターに関わった人が、更にステップアップし、成長していく姿を間近で見続けられたことが大きかったと思います。それぞれの道を見つけ、自分なりの一歩を踏み出していく姿に、いつも勇気とやりがいをもたらしていました。

これからは、自分自身が、ステップアップし、成長していく番だと

思っています。まだ具体的な活動は決まっていますが、新たなフィールドにて自分なりに歩みを続けていきたいと思っています。20年近くにわたり本当にお世話になりました。心から感謝申し上げます。これからもよろしくお願いします。



左端でマイクを持っているのが田口さん

新職員あいさつ 岩野 玲奈

いわの れいな



3月より名古屋NGOセンターの新職員として勤務を開始いたしました。Nたまに20期生として参加し、そこからが私のNGO業界への一歩と

なりました。職員として次の「Nたま生」を集める側へとなり、不安も楽しみもいっぱいですが、たくさんの方たちとコミュニケーションをとりながら、尽力していきたいと思っています。

事務所やイベントで見かけた際は、ぜひ声をおかけください。今後ともよろしくお願いいたします。

インターン紹介 2名のインターンが活躍しています。

伊藤 紗藍さん



高校時代のボランティア経験から社会貢献活動に興味を持ち、今回インターン生として活動させていただくことになりました。限られた期間ではありますが実際に活動なさっている皆様のお話やNGOセンターでの業務の経験を通して、社会貢献活動に関する知識理解を深め、成長できたらと考えております。また、私自身も何か皆様のお力になれるように一生懸命頑張ります。実際に皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

成田 美紀さん

広島県出身、世界の平和に思いを馳せることが身近な環境を経て、NGOに出会いました。その後ザンビア等でボランティア活動に参加し、社会人経験を経て、Nたまを今年修了しました。名古屋NGOセンターを通して、中間支援組織の役割を知り、新たな視点を得たいと思います。社会に貢献する方法は様々ありますが、未来の社会を思い描きながら人生・仕事・社会貢献を一体として考えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



活動報告カレンダー 2024年9月1日～2025年2月28日

●ネットワーキング

- ・シーテック クリック募金2024（6～1月）2万クリック達成
- ・全国ネットワークNGOの集い 世話人＆参加（2/18）

●コンサルティング

- ・NGO相談（外務省NGO相談員）：9～2月407件、出張相談（12/7@ぼらマッチ、12/9@金沢学院大学、12/14@国際協力カレッジ）、第2回連絡会議（11/17, 18）

●情報収集・発信

- ・会報『さんぐりあ』11月号発行（1,000部）・発送（10/22）

●政策提言

- ・多文化共生パートナー育成講座（11/2, 11/16, 12/7）
- ・中部NGO・JICA中部協議会（2/26）
- ・NANCiSアニュアルミーティング『世界と日本の市民社会スペースの現状を概観し、今後を考える』（2/21）

●人材・活動育成

- ・NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ2024（Nたま）講座（9/21～23, 10/6, 19, 11/2, 16, 12/1, 15, 1/19, 2/1）、修了式（2/8）
- ・あなたの挑戦をサポートするNGO研修～持続可能な運営への第一歩講座（9/1, 12, 19, 10/5, 20, 24, 11/9, 30, 1/15, 23, 2/12, 27）、伴走支援（11月～アイキャン、幸縁、アジア保健研修所、外国人ヘルプライン東海）
- ・国際協力カレッジ（12/14）
- ・インターン説明会（2/20）

●運営

- ・理事会（9/20, 11/26, 2/27）
- ・職員会議（9/11, 10/9, 11/13, 12/11, 1/22, 2, 12）

ホームページ	センターからのお知らせ更新回数	14回
	中部NGO情報ひろば更新回数	31回
Facebook	フォロワー数	1,427人
Instagram	フォロワー数	415人
メルマガ	登録数	233人

会員・寄付者、協力者の紹介 (順不同・敬称略)

2024年9月1日～2025年2月28日

●賛助会員(個人/更新)

稲葉健吾、蒲池卓巳、桃井義博、松田翼、堀川絵美、高野菜、藤井朋子、山田淳一、堀田妙子、松尾朋之、水野洋計、村田直美、佐竹眞明、清水淳、長町諭、佐藤玲子、外村悠、横井春香、貝谷京子、梅村紀彦、加賀美薫、谷川毅、守屋保美、瀬川義人、鈴木英司、内田由紀子、大矢健治、森元裕恵、小森夏未、細井和世、野田恭平

●賛助会員(団体)：株式会社シーテック

●寄付者

【一般寄付】

工藤泰三、畠中順也、伊藤信道、丹羽輝明、募金箱

【東海ろうきんNPO寄付システム】

伊藤武士、宇野菊夫、加藤勝子、大野博人、後藤文昭、水野愛、山田志帆、松下和哉、中島正人

【Nたまサポーター】

中島正人、原田篤実、加藤里紗、塩田真也、大須賀恵子、春田みな美、松浦史典、栗田佳典、松浦良子、横井春香、松本恭一、尾崎寿光、谷川毅、齊藤尚文、坂部武志、近藤公彦、中尾さゆり、藤井朋子、齊藤順子、桃井義博、遠山涼子、山本梨恵、神田すみれ、裏見登志子、龍田成人、鉄井宣人、加藤里紗、高木雅成、二角智美、吉岡嗣晃、吉川典子、中島隆宏、笠原聡太郎、河合良太、天野友貴、平林義康、北村祐人、

株根秀之、磯村さやか、小池康弘、和田さとみ、筒井広治、佐藤元紀、貝谷京子、小森夏未、高野菜、大川元嗣、瀬川義人、丹羽俊策、横井春香、森元裕恵、中垣貴裕、水谷洋子、渡辺祐樹、吉田弘生、竹内由美子、高橋美和子、佐藤光、黒田朱里、石川博仁、青木研輔、熊澤友紀子、関口威人、神谷周作、池住義憲、工藤泰三、落合佑哉、田中典子、三ツ松由有子、藤本潔、窪川佐紀、和田信明、岸本正好、村田元夫、寺田裕美、鈴木二葉、松中みどり、和喜田恵介、青山岳史、浅野愛美、川島知司、福嶋聡子、櫻井裕子、中島正博、大屋正人、前倉英人、堀川絵美、塩田匠弥、朝倉美江、藤井朋子、横山紀子、福田美津枝、木村仁志、小田孝、田中耕平、熊谷雄一、八木巖、浜田ゆう、石黒好美、林かぐみ、伊藤幸慶、安村妙、曾我部行子、田中幸男、藤岡博孝、原田篤実、羽佐田美千代、増田いづみ、大村俊夫、余田千恵、市川隆之、西川侑里、田中里枝、金子佳南、レーザークラフトワールド株式会社、岩田崇、渡邊真幸、匿名

【外貨】石川裕子、金井高広、匿名

●アフィリエイト

アマゾン・ヤフー233円

●協力者

【10/22発送作業ボランティア】みきてい、ノダっち、ゆうくん、かえちゃん、そらくん

事務局のひとこと

この春、長年苦楽を共にしてきた仲間が事務局を卒業しました。とても寂しく心細いですが、別の形でまた一緒に活動できると信じています。そして新しい仲間、今いる仲間たちとの時間も大切にしたいです。(坂井)

編集後記

WAFCから、スタッフ4人とボランティア2人でこの研修に参加していたと知りました。事務所と同じフロアにある「車いす病院」も見学。車いすの修理・整備などの作業に参加していたひとりが、丹羽崇人さん。なんと彼もこの研修の参加者、その手こたえを直接聞くこともできました。(中島)

2023年5月発行の127号から、5回に渡ってさんぐりあの編集委員として携わらせてもらいましたが、この度、卒業させていただくことになりました。編集委員の皆様と同じ本を読んで、座談会をしたのはいい思い出です。そして、何より取材を通してお話しした方々との出会いは一生の宝物。短い間でしたが、ありがとうございました。(渡辺)

ロングセラーの「ドライマンゴー」

50年以上活動するフィリピンのNGO プレダ基金はこれまで2,000人以上の子どもたちを性産業から救出しました。マンゴーは小規模農家の応援になるだけでなく、資金として活動を支えています。

★5月17日(土) 国際ジャーナリストの伊藤千尋さんの講演会を開催します！ 詳細はSNSにて！



顔の見える店～FAIR TRADE 風's (ふ～ず)

〒462-0844 名古屋市中区清水5丁目10-8
グリーンフェロービル 3C (EV有)
営業日/月・木・金・土 12時～17時
Tel/070-9120-8820
Mail/huzu.fairtrade2@gmail.com



ヨーグルトに浸けてフルフルに！おかしマンゴー！



JICA海外協力隊60周年記念写真展



2024年12月26日(土) - 2025年5月18日(日)

JICA中部なごや地球ひろば



10:00-18:00 | 入場無料



会派風 PEACE
-安心な毎日を-

世界を変えるために



名駅・ささしま
アクセス | 名古屋駅から徒歩13分
休 館 日 | 月曜・年末年始
(祝日の場合は開館、翌平日が休館)

JICA海外協力隊
応募期間は5月9日まで

総会案内

2025年度の定時総会を開催します。オブザーバー参加を希望される方は事前に事務局までお問合せ下さい。
日時：2025年5月24日(土) 10時～12時 開催場所：名古屋NGOセンターシェアスペース及びオンライン (Zoom)

発 行：特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
会報編集委員：市川隆之、中島正人、廣井修平、桜井裕子、
貝谷京子、丹羽輝明、渡辺祐樹、村山佳江

協 力 者：内藤壽久、三上奈枝

レイアウト：桜井裕子、渡辺祐樹

発 行 日：2025年4月15日

印 刷：山本印刷有限会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL & FAX: 052-228-8109 URL: <http://www.nangoc.org>
E-Mail (代表): info@nangoc.org

会報『さんぐりあ』のレイアウトをボランティアで担当してくださる方を募集しています。
ご自宅でイラストレーターの仕事ができる方がいらっしゃいましたら、名古屋NGOセンター事務局までご連絡下さい。